

平成 22 年 1 月 15 日

各位

会社名 株式会社ミズホメディー

代表者名 代表取締役 唐川 文成

「新型インフルエンザ (*1) A (H1N1pdm) 検出試薬キット」の開発

株式会社ミズホメディー（本社：佐賀県鳥栖市、以下ミズホメディー）は、国立国際医療センターと共同開発を行っておりましたイムノクロマト法 (*2) を原理とした「新型インフルエンザ A (H1N1pdm)」検出試薬の開発に成功いたしました。

新型インフルエンザ A (H1N1pdm) ウイルス感染はメキシコや北米を中心として世界的に流行し、我が国でも多数の感染者が発生すると共に、大きな社会問題となっております。

しかしながら現在、医療機関において、市販の迅速診断キットによりインフルエンザ A 型の診断は出来ても新型インフルエンザ A (H1N1pdm) 感染の簡便で迅速な診断法がなく、その診断については、保健所や衛生研究所等 RT-PCR 検査が可能な施設でのみ鑑別検査が出来る状況であり、簡便で迅速な検査法の開発が緊急課題となっております。平成 21 年 5 月 21 日に内閣府総合科学技術会議において平成 21 年度科学技術振興調整費による「重要政策課題への機動的対応の推進」プログラムにおける課題として課題名：「新型インフルエンザ対策に資する緊急研究 (*3)」が指定され、ミズホメディーは国立国際医療センターと共に緊急の共同開発を立ち上げました。

ミズホメディーは簡便で迅速（イムノクロマト法より測定操作は検体滴下のみで判定までの時間は 10～15 分）かつ正確（現在、季節性インフルエンザ A 型の診断として使用されている迅速診断キットと同等の感度）な性能を有する本キットが、今後懸念される新型インフルエンザ A (H1N1pdm) ウイルスの感染拡大の中、早期治療はもとより、透析患者、糖尿病患者、小児、妊婦などの重症化が懸念される者への感染の防止、集団感染発生の予知や対策に、貢献するものと確信し、早期に診断薬としての製造承認取得する為、国立国際医療センター戸山病院他複数の医療機関において臨床治験を実施しております。

今後、新型インフルエンザ A (H1N1pdm) 感染を鑑別診断することにより医療に貢献出来るものと考えております。

(*1) 新型インフルエンザとは、季節性インフルエンザと抗原性が大きく異なるインフルエンザであって、多くの人が免疫を獲得していないことから、急速なまん延により人々の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものをいう。

(*2) 免疫クロマトグラフィとも呼ばれる。検体が毛细管現象により膜の上を移動する過程で、検体中の抗原と色素で標識された抗体からなる抗原抗体反応複合体が形成され、その標識色素を目視で確認することで抗原を検出する方法。

(*3) http://www8.cao.go.jp/cstp/tyoutyou/20090522release_sinko.pdf